

事業報告書

事業名 青梅のプレーパーク森もり♪あそび



- 1 実施団体 特定非営利活動法人
子どもと文化のNPO 子ども劇場西多摩
- 2 担当課 社会教育課 公園緑地課
- 3 実施時期 令和2年8月16日～令和3年3月31日
- 4 参加者 333名
2020年
8月25名/9月25名/10月35名/11月77名/12月30名
2021年
1月44名/2月83名/3月14名
- 5 実施場所 風の子・太陽の子広場
- 6 事業の目的 自然豊かな公園を利用して五感を使える自然、昔遊びの機会を作り、子ども達の自主性を発揮できる機会をつくる

7 役割分担

- ・ 団体の役割
企画・運営・チラシ・WEB 媒体での広報
- ・ 担当課の役割
広報おうめへの掲載・会場確保

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

風の子太陽の子広場は緑に囲まれ、青梅の豊かな自然に親しめる場です。しかしながら、遊具のない公園や自然の中でどのように遊んでよいものか、子ども達・親たちも知らないでいるため特に子どもの利用は少ないという課題があったように思います。本事業ではのべ 333 名の参加者がありましたが、その多くが複数回にわたり参加していました。夏、秋、冬それぞれの季節による自然の変化、それに伴う季節ごとの遊びの面白さを実感してもらえたと思います。また、何も無いと思われる自然も少しの工夫で楽しい遊び場になることを実感してもらうことで、風の子太陽の子広場の魅力の再発見にもつなぐことができました。

9 目標達成

事業の目標：

- ① 毎回 20 名の子ども・親子を迎え、自然の中であそぶ楽しさ、火・水・土とあそぶという直接体験と出会うことを提供します。
- ② 子ども達の想像性・創造性を引き出し、主体的な遊びにつながる関わりをスタッフがすることで、子どもの非認知能力の育成に努めます。

目標の達成具合：

計 8 回の開催でのべ 333 名の子ども、親子に参加してもらえました。

保護者同士の口コミも大きく、家族同士で誘い合っただけの参加者も多かった。遠くは世田谷区から複数回の参加もあるなど風の子太陽の子広場の魅力の再発見につながったようです。

子ども達の遊びも、例えば段ボールの滑り台をすべるだけでなく、滑って中々登れないことを楽しむ、助け合う、引きずりおろす、などいろいろな遊び方をしていました。決まったあそび方ではなく、遊び道具それぞれの特性を利用した遊びがいろいろと広がりました。子ども達の好奇心を用意した道具から引き出し、子ども達が終始、主体的な姿勢であそぶためのアプローチや空間づくりができました。

10 事業の実施内容

毎回 焚火、木工作、段ボール滑り台、お絵かき、ハンモック、コマ、ボールなどの遊び道具を用意。林や沢での虫取り、雑木林の散歩、おしゃべり、昼寝、パチンコ、などの自分のやりたいこと、キャッチボール、鬼ごっこ、みんなで探検など、コミュニケーションの中で始まる遊びなどがおこなわれました。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	3	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

毎回想像を超える参加者があり子ども達の自然体験、遊び体験に対する要求の多さを実感することが出来ました。プレーパークは特別な活動ではなく子ども達の日常の一部として気軽に遊びに来られる場所であることが望ましいです。より日常の活動に近づけて行けるように、今後も青梅市と連携しながら大きく広げて行けたらと思います。

13 その他